



＜学校教育目標＞

- すすんで考える子
- すなおで思いやりのある子
- ねばり強くやりぬく子
- 明るくたくましい子

令和5年12月22日発行



令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の対策（6年生～全学年）

本年4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査（対象：6学年児童）の本校の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。本校では、この調査を「6年生だけの結果」ととらえずに、「全校児童の結果」ととらえています。その上で、児童の学力向上に向けた行動プランを作成し、学校の教育計画や日常の授業の改善に取り組んでまいります。加えて、ご家庭と連携して資質・能力の向上に取り組んでいきたいと思っておりますので、是非、ご一読ください。

1. 教科に関する調査結果



国語

全国の平均正答率と比較して低い結果でした。

【話すこと・聞くこと】

この領域の問題は3問でした。正答率は全国比で相当低い結果でした。「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかどうかをみる」という選択式の問題、「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるようにする。」という記述式の問題で課題が見られました。

【書くこと】

この領域の問題は1問でした。正答率は全国比で相当低い結果でした。「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」の記述式の問題で課題が見られました。

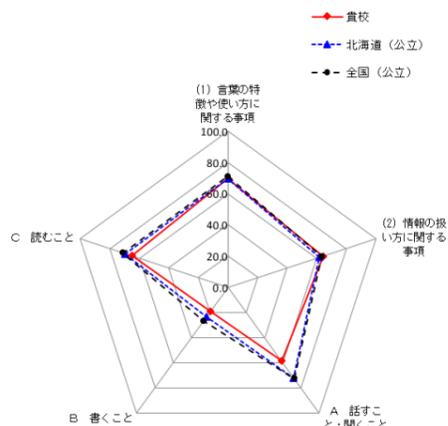
【読むこと】

この領域の問題は3問で、正答率は全国比で低い結果でした。2問は選択式の設定で「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することがどうかをみる」問題では、正答率全国比で同様でしたが、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる」問題は、正答率全国比で相当低い結果でした。記述式の問題は、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」設問1問で、正答率全国比でやや低い結果となりました。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

この領域の問題は5問でした。正答率全国比で、ほぼ同様（下位）の結果でした。漢字の書き取りの設問は3問ありましたが、どの問題も正答率全国比でややひどい結果でした。「文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる」の設問では、全国平均正答率でほぼ同様（上位）の結果でした。

□「記述式問題」は3問あり、本校の平均正答率は全国比で低い結果となりました。無回答率の割合も全国比で



相当高い結果となりました。

□選択式、短答式の設定問においては無回答率が0%で、答える意識を持っていることがわかりました。

算数

全国の平均正答率と比較して相当低い結果でした。

【数と計算】

この領域の問題は6問でした。正答率全国比で相当低い結果でした。特に「3種類のファイルを23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する」記述式の問題に課題が見られました。

【図形】

この領域の問題は4問でした。正答率全国比でやや低い結果でした。「切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く」設問では、正答率全国比でやや高い結果でしたが、「テープを直線で切った二つの三角形の面積の大小について、分かることを選び、選んだわけを書く」記述式の設定問は、正答率全国比で相当低い結果となりました。

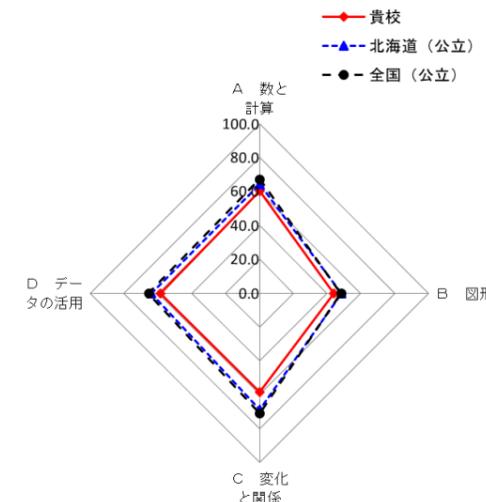
【変化と関係】

この領域の問題は4問で、正答率全国比で相当低い結果でした。特に「百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる」設問では、選択式問題でしたが、正答率全国比で相当低い結果となりました。

【データの活用】

この領域の問題は3問で、全国と比べて低い結果でした。「二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ」設問が、選択式問題でしたが、正答率全国比で相当低い結果となりました。

□「記述式」の問題は4問ありましたが、正答率全国比で相当低い結果となりました。選択式、短答式の問題でも、無回答者が見られました。



★学校では今後このような指導を行います★

☆学習規律「心がまえ」「物がまえ」を徹底します。

全ての学級に学習の土台となる、向陽台小の共通ルール「心がまえ」「物がまえ」の100%定着をめざし、徹底して指導していきます。学級経営の改善が授業改善の基礎になると考え、hyperQUの分析交流を行い(8月、1月)、学級の実態と改善策を全教職員で共通理解した上で改善に取り組みます。また学校力向上の観点から、安心した学習環境を作るためにも、算数科において、「四則の筆算（くり上がり・くり下がり）の記入場所、小数点の処理方法など」「四捨五入のしかた」、「数直線の書き方」など、どの教師でも、同じ手順・同じ書き方で指導できるように学校共通の指導法「向小スタンダード」を徹底させていきます。

向陽っ子 ものがまえ

道具袋の中

- はさみ
- のり
- セロハンテープ
- 色鉛筆

ふでばこの中

- 家でけずった えんぴつ 5、6本
- きれいに消える けしゴム 1こ
- よけいなかざりがいい じょうぎ 1本
- 大事なところに 赤ペン、青ペン、
ラインマーカー 1本ずつ

机の上

- 教科書は左、ノートは右
*左利きの方は、逆。
- 上、鉛筆、けしゴム、赤ペン、青ペン、じょうぎ
*ふでばこは、机の中にしまおう。

向陽っ子 心がまえ

学習中のきまり

- チャイムが鳴ったら、すぐ自分の席にすわる。
- あてられたら、元氣よく「はい」と返事。
- お話は「です」「ます」を上手に使う。
- しぜいを正しく、足はベタン、背すじはピン、おなかはグー。
- マスを使って、見やすいノート。
- 課題は赤く、まとめは青く、定規でかかむ。
- 席をはなれるときは、イスをしまおう。

☆『対話を重視し、ICTを活用した授業』を行います。

授業に、児童が意図や目的をもって「対話する」場面を多く取り入れます。また、タブレットなどICT機器を活用する場面に授業に多く取り入れます。タブレットなどの活用による「個別最適な学び」や、ICT機器を活用し、互いの考えを視覚的に共有することにより議論を深め、学習課題に対する意見整理を円滑に進めるなどの「協働的な学び」を行うことで、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力などを育成していきます。



☆自分の考えを表現する力を伸ばします。

本校では、「条件に合わせて記述する」「答えの求め方を式や言葉を用いて記述する」力に課題が見られました。記述式の無解答率も全国平均に比べ高いという結果でした。また、無解答でなくても、中途半端な解答をして、あきらめている児童が少なからずいるということがわかりました。

国語科では、今年度の学校の研究主題「ともに学び、心豊かに表現できる子どもの育成」と関連付けて、自分の思いや考えを書く、話す等の表現力を高める活動を充実していきます。特に書く力を育てるために、ノートやワークシート等を活用して、1時間の授業の中で自分の考えを書かせる活動をできるだけ多く取り入れます。その際、全員が自分なりの考えをもって上で授業に参加できる手立てをとり、落ち着いて表現できる場面を確保します。また、記述の時は、キーワードや字数制限など条件に合わせて書くことができるように指導していきます。

算数科では、情報を整理して問題場면을図に表したり、問題の解き方を式や言葉などで記述する場面を多く設定します。また、問題解決の過程を説明したり、自分なりの考えをペアやグループ、全体で表現できる場面を確保していきます。

表やグラフを多く扱う社会科・理科でも、資料を読み取る力、文章と結び付けて読み取る力をつけていけるように「表やグラフから何が分かるのか」を丁寧に取り扱っていきます。



☆漢字や計算の確実な定着を目指します。

「自分の考えを表現する力」を伸ばすためには、その前段階である漢字の読み書き、計算力等の「基礎的な力」を徹底させる必要があります。四則計算が苦手、あるいは遅い子が各学年に少なからずおり、記述式問題まで手が回らないという児童も多い状況です。授業での取組（漢字スキルやプリント学習等も含む）⇒宿題・自学等での復習⇒ミニテスト・まとめテストといった一連の地道な学習に着実に取り組むことで、「読み・書き・計算」といった基礎・基本の確実な定着を目指していきます。授業の最初のスキルタイムを利用して漢字練習や音読、語句調べ等の活動を行い、基礎基本の積み上げを図ります。また、休み時間等を活用して、計算の正確性、速さの向上を図る取組を行っています。



☆習熟度別少人数学習をより充実させていきます。

3年生以上の多くの学年で、実施している算数の習熟度別少人数学習において、「どんどんコース」「のびのびコース」「じっくりコース」の3つのコースで学習をすすめています。特に「じっくりコース」では、まず前学年までの復習に取り組むことを本校の約束事としています。これまでの積み残しをできるだけ少なくした上で新しい単元をスタートし、充実した学習にしていきます。また、少人数学習では、単元ごとに指導する教師が変わることがあるので、「どの教師からも対話を重視した、同じ手順での学び」を目指していきます。

2. 質問紙に関する調査結果

- 全国平均よりも「当てはまる」等の割合が高かった項目
- 全国平均よりも「当てはまらない」等の割合が高かった項目

- 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と答えた児童は100%。
- 「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合が90%。
- 「将来の夢や目標を持っている」児童の割合が86%。
- 「人が困っているときは、進んで助けてあげる」と答えた児童が100%。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた児童は100%。
- 「家で自分で計画を立てて勉強している」児童が86%。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」57%。
- 学校の授業以外に、普段（月～金）や土日どちらでもどれくらい勉強していますか（民間教育含む）30分未満18%。
- 「新聞を読んでいますか」で月1～3回以下が95%。
- 「算数の授業内容はよくわかる」で「当てはまらない」が14%。

★基本的な生活習慣について★

朝食を毎日とるとともに、毎日寝る、起きる時刻も一定と答えた児童が多く、大変良い生活習慣が身に付いているようです。ただ、保護者アンケートからは、スマホ等で長時間ゲームや動画視聴する児童も少なからずいることがわかりました。

1～6学年までの基本的な生活習慣（朝食・睡眠・ゲームなど）の状況については、7月に行った「生活リズムチェック」に引き続き、2回目を12月に行いました。結果と考察を、保健便りに掲載予定ですので、ご覧ください。

学校で、困りごとや不安など、担任、養護教諭、心の相談員、スクールカウンセラー等とより気軽に相談できるように改善を図っていきます。



★家庭での学習について★

「家で1時間以上勉強をしている」と答えた児童が平日は71%、土日は81%、「全くしない」と答えた児童は平日、土日ともに5%いました。

平日の1日あたりの読書時間が「30分より少ない」と答えた児童が24%いました。学校でも、学校司書、森ツクを中心に図書ボランティアの方々のご協力をいただき、読書を推奨する活動を行っていますが、今後も学校図書（本の森）等を利用しての読書や家読などの大切さを伝え、読書週間の育成を図っていきたいと考えております。

また、新聞について、学校ではできる限り、子ども新聞等に触れさせる機会を多くし、新聞を読む習慣を身につけるように働きかけますので、ご家庭でも啓発をお願いいたします。

家庭学習時間としては、『学年×10分+10分』が目安とされていますので、しっかり確保できるように学校でも引き続き指導していきます。ご家庭での学習状況の確認や読書、新聞読みの推奨をよろしく願います。

これからも、ご家庭と学校が連携し、学力および学習状況の向上を目指していきたいと思っております。ご理解、ご協力の程、よろしくお願い致します。